

2024年まで残りわずか!!

働き方改革への最終チェック

5年遅れとされていた建設業における時間外労働の上限規制の施行まであとわずかです。働き方改革は単に労働時間を削減することが目的ではなく、生産年齢人口が減少し、働き手が不足する中、限られた時間の中で成果を上げるといった生産性の向上が本当の目的なのです。とはいえ、社内の労働環境を一気に変えることはできません。1つ1つの取り組みを重ね、上限規制への対応を準備していきましょう!!



Profile

社会保険労務士法人
アスミル
特定社会保険労務士
櫻井 好美

【第2回】労働時間管理②

チェック項目

- ☒ 勤怠管理は客観的な方法で実施していますか?
- ☒ 時間外労働の申請は適正に行われていますか?
- ☒ 年次有給休暇の管理はしていますか?

■労働時間の適正把握

労働時間の適正な把握のために、厚生労働省より「労働時間の適正な把握のために使用者が講ずべき措置に関するガイドライン」がでています。ここでは、使用者は、労働者の労働日ごとの始業・終業時刻を確認し、適正に記録することとなっています。建設業においては、日給の作業員の方は、出面表のみの管理で、始業・終業の時刻を記載していないケースが見受けられますが、日給者の方であっても時間の記録は必要です。また、今回の働き方改革関連法の1つとして労働安全衛生法が改正されました。以前は労働時間の把握は適正な残業計算をすることが主たる目的であったのが、労働時間を適正に把握することで、長時間労働や過重労働を防ぐという目的もあり、健康管理の観点からも残業の対象外でもある管理監督者も含めたすべての労働者に対して労働時間の把握が義務化されています。

■時間管理の原則的な方法

- ①使用者が自ら現認により確認すること
- ②タイムカード、ICカード、パソコンの使用時間の記録等の客観的な記録を基礎として確認し、適正に記録をすること

■自己申告制で労働時間を把握する場合

- ①管理者側、労働者側に適正な運用方法を説明すること
- ②自己申告の時間と実態の時間(入退場の記録やパソコンの使用時間等)と乖離がある場合は、必ず確認をし、実際の労働時間を記録すること

例えば、9時に出勤という申告をしたにも関わらず、朝の入場の記録をみると7時だったとします。この場合、必ず本人に確認をしてください。本人が、仕事が溜まっていたので、業務をしていたというのであれば労働時間となりますが、「朝はゆっくり通勤をし、会社で朝食をとっていました」ということであれば、始業は申告通りの9時になります。

時間のチェックは1週間まとめでは、正しい実態調査ができません。日々の管理をしっかりしていきましょう!!

取組事例

きっかけ きっかけは「労働時間の見える化」

労働時間に関しては、現場のリーダーが現認をし、業務日報に始業・終業の時刻を記録していました。しかし、現場の作業員はほとんどが直行直帰であるため、業務日報が総務に戻ってくるのはタイムラグがありました。1週間経過してからでは、休暇の状況や記入漏れがあった場合の確認も難しく、給与計算をする総務の業務も煩雑になってしまい、何か方法はないかと検討をしてきました。

事例紹介 協力会社

会社名：株式会社 村井業務店
所在地：東京都港区
業種：左官工事
従業員数：16名



勤怠アプリを導入

リアルタイムに時間を確認するため、勤怠アプリを導入することにしました。作業員の方の個々のスマホにアプリを入れ、現場に入るときに「出勤」ボタンを押し、仕事が終わった際には「退勤」のボタンを押してもらいます。慣れるまでには押し忘れ等もありましたが、総務では管理画面が確認できるため、朝「出勤」ボタンが押されていない作業員の方には連絡をし、単に押し忘れなのか、それとも体調が悪くてお休みをしているのか?という確認をとるようになりました。また、労働時間が見える化できたことで、休日出勤が続いてしまっている場合は振替休日の促進や、長時間労働にならないよう声かけが出来るようになり、結果主義であった時間管理から、リアルタイムでの時間管理ができるようになりました。それ以上に、時間を記録することでそれぞれが労働時間に対しての意識が変わってきたように感じています。

年次有給休暇について

今までは有給休暇について、本社へ届出をだして取得をしていました。今回、勤怠アプリを入れたことで、有給休暇の申請もアプリからすることができるようになりました。紙で申請の煩わしさがなくなったことで、今までよりも誰もが有給休暇を取得しやすくなりました。これからは、半日単位や時間単位といった有給休暇についてもチャレンジしていこうと思っています。

業務の効率化

勤怠アプリの導入によって、給与計算業務をしている総務の手間が格段に減りました。今までのように月末にまとめて勤怠の確認をしていた作業がなくなり、日々のチェックができること、また有給休暇の管理も個人別台帳を作成していたものが、アプリの中で完結するようになり労務管理について効率化が進み始めました。勤怠アプリは初期段階ですが、今後は労働時間削減のための効率化について他にも検討していこうと思っています。



まとめ

勤怠アプリの導入で、労働時間や休日、休暇がしっかりと見える化できてきました。初めは「本当にできるのか?」という不安な部分もあったようですが、日々改善しながら自社のルールを作り上げられているようです。労働時間の削減には、日々の行動改善が伴います。会社としての仕組み化にもっていくためにも、1つ1つの取り組みを大切にいきましょう。